

“宇宙を視座に大人が変わる 子どもが輝く 美しい星が生まれる”【子どもと宇宙と未来をつなぐ】

宇宙科学研究所がこれまで打ち上げてきたイプシロンロケットは2022年10月に打ち上げた6号機が2段目燃焼終了後に姿勢異常が見られたため、地球周回軌道に投入できないと判断し、ロケットに指令破壊信号が送出され、残念ながら初の打ち上げ失敗となりました。



▲HIIIロケットイメージCG

今後の衛星・探査機の打上予定は2022年度にHIIIロケットの試験飛翔、2023年度に小型月着陸実証機SLIM、X線分光撮像衛星XRISMおよび木星氷衛星探査計画JUICEの3つの衛星・探査機の打上の予定となっています。

小型月着陸実証機SLIMは将来の月惑星探査に必要なピンポイント着陸技術を研究し、それを小型探査機で月面にて実証する計画で、X線分光撮像衛星XRISMはNASAやESAの協力のもと2018年に開始され、星や銀河、そしてその間を吹き渡る高温ガス「プラズマ」に含まれる元素やその速さを測ることで、星や銀河、銀河の集団がつくる大規模構造の成り立ちをこれまでにない詳しさと明らかにします。

さらに、木星氷衛星探査計画JUICEは太陽系最大の惑星で、太陽系がどのようにしてできたかを理解するための鍵を握っています。木星がどこでどのようにしてできたかの記録を残すガリレオ衛星を調べることで、私たちの太陽系と、太陽系外で続々と発見される「系外惑星系」の成り立ちを知る手がかりが得られることになります。

これからの宇宙探査等に期待して行きましょう。

令和4年も残すところ後わずかとなりました。会員のみなさまにおかれましては、どのような年末をお過ごしでしょうか。本年も会員のみなさまに支えられ様々な活動を行うことができました。ひとかたならぬご支援に感謝申し上げます。来年も様々な活動にチャレンジしてまいります。変わらぬご支援、ご協力の程よろしく願いたします。来年も皆様にとってより良い一年になりますように。そして、この地球という故郷に一日も早く、平和が訪れることを心から祈念いたします。

【事務局一同】

これからの衛星・探査機の打上に期待

会長 並木道義



活動報告&予定

🚀イベント支援等

10/2 多摩市大栗川・かるがも館 講演派遣
10/14 安来市小学校・中学校 出前授業（島根）
10/15 さんそ学習館ケイオス宇宙教室（島根）
10/26 ひまわり HAUS（重症心身障害・肢体不自由児の放課後活動）宇宙の教室（新宿）
11/13 ジャポニカ学習帳 宇宙教室（大阪）
12/2.9 私立大学特別授業支援（講師派遣）
12/17 山口県大人版宇宙の教室
12/18 ジャポニカ学習帳 宇宙教室（福岡）

🚀「宇宙の学校®」

最終スクーリングが終了した地域が多くなりました。各地のこれまでの開催模様や参加家族が作成された家庭での実験工作模様のレポートをWebページで紹介しています。
🔍<https://www.ku-ma.or.jp/>

🚀企業CSR支援

10/13 MHI 静岡県小中学校 理科授業支援

🚀その他

10/15 宇宙教育シンポジウム 活動紹介

📅今後のイベント支援等活動予定

1/28 山口県家族向けイベント（リモート）
1/31 広島県三原市中学校理科授業CSR支援（広島）
2/5 ジャポニカ学習帳 宇宙教室（愛知）
2/12 大和ハウス工業みらい価値共創センター（奈良）宇宙の教室

📅日程調整中📅

杉並区立小学校 特別授業
ジャポニカ学習帳宇宙教室（埼玉）ほか

■編集後記

この間、夜道で車を避けたら段差に気付かず転びました。素面です。スマホも見えてませんよ。運動不足で体が硬いの、受け身を取れたのでかすり傷で済みました。不意だから痛いよりびっくりした。(田) 今年はいずれ月食やふたご座流星群の流星を見て感動しました！徐々に宇宙の学校やイベントの開催が増加し、現場で子どもたちや色々な笑顔に会えるようになってきました。来年はもっともっとたくさん笑顔に出会えますように！来年、うさぎ年。なぜか最近気になって買った日本酒は「脱兎」読んで字のごとく、あっという間になくなりました(笑)(い)

■会員随時募集中！！

◇正会員：KU-MAのミッションに賛同し、活動を推進する個人/法人・団体
年会費 個人：10,000円(学生5,000円)、法人・団体：50,000円
◇賛助会員：KU-MAのミッションに賛同し、寄付いただける個人と法人・団体
年会費 個人：1口1,000円、法人・団体：1口50,000円
※個人賛助会員への会員証の発行、メールマガジンの送付は5口以上からです。

■会費や寄付金のお振込先

【会費や寄付金のお振込先は下記の口座へ】
横浜銀行 刈野辺支店 普通預金 1768456
特定非営利活動法人子ども・宇宙・未来の会
会長 並木道義



▲10/26 ひまわり HAUS 宇宙の教室 開催模様
久しぶりにみなさんにお会いできました。
今日は皆既月食のおはなしと星座絵を作りました。



▲12/18 ジャポニカ学習帳宇宙教室 開催模様
今年度、宇宙教室開催のご相談があり、各地で実施しています。



ジャポニカ学習帳といえば、みなさんも小さい頃に使ったことがあるのではないのでしょうか。現在、虫のシリーズはなくなってしまったようですが、宇宙シリーズも販売されています。(写真は一部)

会員情報

正会員 165(個人:152 学生:0 企業・団体:13)

賛助会員 6(個人:35 企業・団体:11)

みなさまの会費や寄付金が運営費の一部となり、KU-MA活動を展開させていただいております。

日頃のご支援に心より感謝を申し上げますとともに、引き続き、活動および活動資金へのご協力をお願いいたします。

当会への寄付(賛助会費含む)は、寄付金控除の対象となります。詳しくはWebページでご確認ください。

「子どもの宇宙」を広げ 未来を豊かに
KU-MAはJAXA宇宙教育センターと宇宙教育活動に関する協定書に基づき、連携・協力しながら宇宙教育活動を推進しています
「宇宙の学校®」は、KU-MAの登録商標です

認定NPO法人 子ども・宇宙・未来の会「宇宙の学校」事務局
〒252-5210神奈川県相模原市中央区由野台3-1-1JAXA内
電話・FAX：042-750-2690
E-mail：KU-MAs@ku-ma.or.jp
ホームページ：https://www.ku-ma.or.jp

KU-MA とわたし

会員 遠地 卓二

「宇宙の学校」との出会い

現役時代は人工衛星の地上追跡管制システムの開発・運用業務に携わっており、その恩返しとして退職後宇宙分野で何かお役に立てることがあればと考えておりました。退職して程なく相模原宇宙研の KU-MA 事務局で宇宙の学校関連の教材作りのお手伝いをさせていただくようになり、そこで紹介されたことが縁でNPO法人「ちばサイエンスの会」の「宇宙の学校（ちば校）」活動に参加させていただくことになりました。

熱意あふれる講師・スタッフとの出会い

「宇宙の学校」に参加してまず感じたのは講師・スタッフの方たちのいきいきとした表情です。本当に楽しそうでした。子供たちに科学の楽しさを知ってほしい、そのためのきっかけを作ってあげたい、という熱意にあふれていました。なるほどこういう方たちが地域の科学教育活動を支えているんだ、そしてそのあふれんばかりの熱意が「宇宙の学校」というすばらしい活動モデルに注がれて「宇宙の学校」活動が大きく広がっていったんだ、ということを感じました。

熱意のエネルギー源は子供たち

その熱意のエネルギー源になっているのが参加してくれる子供たちです。みんな夢中になって眼を輝かせています。それまで間近で大勢の子供たちと接する機会もなかったので、素直に感動してしまいました。特に恒例の水ロケットの時の親子の歓声を聞くと、その度にやってよかったと、、、私の退職後活動の柱の一つとして今に至っています。



▲百均アイテムで望遠鏡を作ろう

「宇宙の学校」ちば校の活動再開を目指して・・・

勿論課題もいろいろ。まずは活動メンバーの高齢化です。なかなか新陳代謝が進みません。昨今の定年延長の動きも新メンバー探しをより難しくしているようで、もっと現役世代を活動に巻き込んでいく工夫が必要です。また、コロナ禍で活動継続にも困難が生じています。ちば校もまだ「宇宙の学校」としての活動ができておりません。コロナ禍の中での単発的な活動についても「宇宙の学校」という名称を使える仕組みを考えていただくとうれしいです。

最後に、微力ながらこれからも「宇宙の学校」活動に貢献していきたいと思っています。

新型コロナと子どもたち II

-コロナ禍での教育現場の今を-

学齢期の子どもたちへの影響

「人の顔＝上半分？」 理事 吉川さやか



プロフィール
2017 年 NPO 法人太陽の村 理事長就任
・フリースクール：不登校児童・生徒の受け入れ
相模原市教育委員会フリースクール連携協議会登録
・放課後等サービス：発達障がいをもつ児童・生徒の支援
・自然体験教室：小・中学生を対象にした感性に訴える野外活動
開所以来、のべ利用人数 3 万人以上。
同年 相模原「宇宙の学校」実行委員
2021 年 1 月より KU-MA 理事就任
趣味：旅行

私は、発達障がい児と不登校児を受け入れる施設で働いています。ここ2、3年で「外に出たらコロナがいる」という恐怖から、電車に乗れなくなったり、家族以外と会いたがらなくなったりした子どもがいました。人口が少ない地方に引越すという事例もありました。令和になったばかりの時期、大阪の心斎橋の薬局で中国語で「加湯（がんばれ）」とポップに書いてマスクを販売していて、段ボールで買求めている彼等を見て、「大変そうだなあ」とひと事に思っていました。それからあつという間に日本でもコロナ、コロナと言いだし、今度は自分たちがマスクを入手するのが困難になり、子ども達に大きな影響を与える臨時休校が始まったのです。

学校や地域のイベントもことごとく中止になりました。子どもの頃の思い出は、その時にしか作れません。運動会、夏祭り、花火大会、おばあちゃんち、修学旅行。大人になって振り返って、甘酸っぱい記憶を辿ったり、友人とその話題で盛り上がったたりするでしょう。その年齢・学年でしか出来ない、貴重な経験値を積む機会が奪われてしまいました。

顔の上しか見えないマスクの着用

コロナとセットで語られるべきが「マスク着用」です。律儀な国民性で、マスクを着用して熱中症で運ばれたというニュースを聞きます。学校でのオンライン授業で相手に「マスクをしてよ」と発言する児童を見ても、もう少し周りの大人が科学的に教える必要性を感じました。

「外で会う人（お友達）」顔の上しか見えない」影響も懸念事項です。年齢が小さいほど、相手の顔全体を見ながらの表情の観察が必要になります。学齢期にあっても、表情から相手の感情を読み取るのが苦手な子どもがいます。ここにマスクが加わると、お手上げです。

コロナで救われた子ども

ただ、コロナで救われた子どももいました。不登校や行き渋りの状態にある子ども達は、学校の授業がある時間帯に在宅している罪悪感を臨時休校中は感じなくて済みました。学校に欠席の連絡をしなくて済んだのが精神的にラクだったという保護者の声も聞きました。また、「分散登校」の期間は、子どもたちは少人数のクラスで過ごす事が出来ました。先生の目も届きやすかったです。この期間は登校しやすかったのか、普段は学校を休みがちな子どもでも、出席が増えたと保護者から伺いました。

あと5年、10年したら、コロナの時期をどう振り返るでしょう。コロナより前の日常が子ども達に一日でも早く戻って来る事を願ってやみません。



▲講演される遠地さん